

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 () 平成19年度:41.

当院における自己血採血の実態

向野, 美智代

当院における自己血採血の実態

外来ナースステーション 向野美智代

【はじめに】平成18年4月17日に当院輸血部門に自己血採血室が新設され、同時に専任看護師が配置された。業務開始後、約1年半の稼動状況と看護業務について報告する。

【対象および方法】平成18年4月から平成19年8月末までの貯血患者数、依頼診療科、有害事象について集計を行った。また、専任の看護師として採血業務における活動内容もあわせて報告する。

【自己血採血の流れ】主治医が患者にICを行い、貯血計画と同意書を作成する。輸血部に電話で日時の確認をしてから、オーダーリングで予約をする。自己血採血の依頼を受け、看護師による検査データや同意書の確認、採血前のオリエンテーションを行う。クリニカルパスと自己血採血マニュアルに従い医師の立ち会いのもと看護師が採血を行っている。

【稼動状況】平成19年8月14日現在で165症例、245件、488単位の自己血貯血が行われた。依頼診療科は整形外科症例が最も多く87症例であった。次いで泌尿器科27症例、消化器外科24症例だった。有害事象は再穿刺が6例、VVRが1例発生している。貯血患者数は入院・外来貯血とも、ほぼ同じ割合になっている。

【看護業務手順の確立】①自己血採血時の手順書を作成した。実際の採血している様子を時系列に沿って、写真入で作成した。②オリエンテーションに使用するリーフレットを作成した。③医療職への啓発。所属部署内で自己血採血時の手順書を用いて、勉強会を行った。

【今後の課題】採血に対する不安の軽減や患者情報を把握するために、採血前オリエンテーションは重要と考えているが、実際には外来貯血患者には行えていないため、これから課題の一つである。また、輸血部医師不在時は主治医の立会いが業務手順となっているが、外来診療との掛け持ちのため採血時の有害事象は、看護師が早期に発見し対応することが求められる。

【おわりに】自己血輸血に携わる看護師として、専門的知識・技術の習得は必須である。安全な貯血式自己血輸血の推進のために看護師の講習会、勉強会を開催することが重要である。